

先輩職員に、倉敷市役所の仕事や働く魅力について聞きました！

01：倉敷市役所で働く魅力について



■倉敷市の職員になったきっかけ

私は、自身の経験上「豊かさとは、選択肢があること」だと感じており、多くの人に選択肢を与えられる仕事がしたいと思っていました。

そういう思いから、就職先を考えたときに、住民の方との距離が一番近く、日々の様々な生活の場面に関わることができる市役所職員の仕事に魅力を感じました。また、自分が生まれ育ったまちである倉敷市で、市職員となって、実際にまちづくりに携わりたいという気持ちもあったため、倉敷市職員として働くことにしました。

■市役所のイメージと現実とのギャップ

採用前、市役所は事務仕事が多いと思っていましたが、最初の職場の玉島支所産業課では、作業着を着て長靴をはいて、用水路等に入っていく現場仕事が多かったです。「こんなことも市の仕事なのか」と驚きました。支所では、現場に出かけ、市民の方と直接接することが多く、いろいろな方に出会い、知り合いました。特に印象に残っているのは、採用1年目、市内で甚大な高潮被害を出した平成16年の台風16号です。夜通しで現場対応に追われ、高潮で堤防が決壊する場面や家屋の被災状況を目の当たりにし、市民の命や、生活を守る大事な仕事であるという使命感を強く持ちました。机の上では解決しない事案を数多く経験したことは、今の自分が仕事をする上で大きな財産になっています。

■市民協働の視点

環境政策課では、地球温暖化対策を担当していましたが、環境問題は一朝一夕に解決するものではなく、また、行政だけで解決できるものでもありません。各種事業の企画や実施にあたっては、市民や民間活動団体、企業といった様々な関係者とともに進めていくことが必要で、地域で継続して取り組める仕組みをどう作っていくかという視点が不可欠です。このような“市民協働”の関係をどう築いていくか、常に模索しながら業務を行うことは、これからの行政職員に求められている重要なことだと感じました。

■倉敷市役所で働く魅力

市役所の仕事は多岐にわたるため、ジャンルの違う様々な仕事を体験することができるのは、刺激があります。現在、私は観光課で、市に訪れる観光客を増やすため、観光イベントの企画運営に携わっています。今までの仕事とは違う視点で物事を考えていかなければならない、新たな事にチャレンジできることはとても楽しいです。

また、社会にとって必要な仕組みや制度を新しく作ることも、市役所の大きな魅力の1つだと思います。地球温暖化、少子高齢化など、全国的に解決が困難な社会的課題が倉敷市にもあります。そういった課題に対して、立ち向かうことは大変なことですが、やる気をもって、積極的に行動すれば、誰かが見てくれますし、サポートしてくれる職場風土が倉敷市役所にはあります。これから入ってくる皆さんには、社会のために、地域の課題を解決しようとする使命感と強い信念を持って仕事に望んでほしいですね。

ここにも倉敷市役所 年間約400万人が訪れる観光名所「美観地区」。こんな部署が関わっています。



「観光PR」……………観光課

「倉敷川の清掃」……………耕地水路課

「電線類の地中化」……………街路課

「伝統的建造物の保護」……………文化財保護課

「町並みの保存」……………建築指導課